

## 霊の識別の規定

---

### 〔第一週の霊の識別の規定〕

1. 悪霊と善霊の振る舞い [314]
2. 神はどのように話しますか？ [315]
3. 慰めとは何ですか？ [316]
4. 荒みとは何ですか？ [317]
5. 何をするか？
  - a. 荒みの時：
    - i. 変えないように [318]
    - ii. 反対のことをするように [319]
    - iii. なぜ荒みがあるのですか？ [320]
    - iv. 忍耐を持つように [321]
    - v. 荒みの原因 [322]
  - b. 慰めの時
    - i. 何をする？ [323]
    - ii. 謙虚になる：すべては恵みです [324]
6. 荒みの時の行動は？ [325]
7. 敵はどのように振る舞いますか？
  - a. ひそかに [326]
  - b. 弱いところから攻撃する [327]

### 〔第二週の霊の識別の規定〕

1. 神はどのように振る舞いますか？
  - a. 喜びを与える... [329]
2. 神は理由もなく慰めを与えます [330]

## 霊の識別の規定

---

3. 前に原因がない場合...：注意するように！ [331]
4. 「悪い天使」は変装する [332]
5. 「良い天使」と「悪い天使」を区別する方法は？ [333]
6. 悪い天使がどのように行動するかに注意すること [334]
7. 「良いものから良いものへと進んだ」人たち... [335]
  - a. 良い天使はどのように行動しますか？（「スポンジに水が入るように」）  
[335]
  - b. 悪い天使はどのように行動しますか？（「石の上に水を落とすように」）  
[335]
8. 「理由のない」慰め：慰め続けることに注意を払う...人は間違いを犯す可能性があるので、行動する前に目的などを「調べる」 [336]

## 霊の識別の規定

---

### 〔 第一週の霊の識別の規定 〕

313 霊魂に引き起こされる種々の動きをいくらか知覚するための規定。良い霊動を受け入れ、悪い霊動を退けるためである。この規則は第一週によりふさわしい。

#### 1. 悪霊と善霊の振る舞い [314]

314 第一則

大罪に大罪を重ねている人の場合、さらにその悪徳と罪を続けさせ増大させるため、敵は快樂を目の前に浮かべさせ、感覚的な楽しみや快樂を想像させるのが常である。同じ人の場合、善霊は反対に善悪の判断力を通して良心を刺し、呵責を感じさせるのである。

#### 2. 神はどのように話しますか？ [315]

315 第二則

ひたすら罪を清めようとし、我が主なる神への奉仕の道にますます進んでいる人の場合、事情は第一則と逆になる。その場合悪霊の特徴は、人をさいなみ、悲しませ、妨げをおいたりして進歩しないように、根拠のない理屈で心を乱す事である。他方、善霊の特徴は人を励まし、力、慰めと涙、靈感と安らぎを与えたりして、善行の道に一層進歩できるよう万事を易しくし、あらゆる妨げを取り除く事である。

#### 3. 慰めとは何ですか？ [316]

316 第三則

霊的慰めについて。霊魂の内に内的な動きが引き起こされ、それで霊魂が創造主への愛に燃え上がり、もはや地上のいかなる被造物もそれ自体においてではなく、万物の創造主においてのみそれらを愛する事ができる状態を慰めと言う。又、自分の罪の痛みからか、我が主キリストの受難のゆえか、あるいは主への奉仕と賛美を直接に目指す他の刺激のため、主への愛に駆り立てる涙を流す時も霊的慰めと言う。最後に、創造主の内に霊魂に静けさと平和を与え、天上のものと自分の救霊へと呼び寄せ引き寄せるあらゆる希望・信仰・愛徳の増大、あらゆる内的喜びを慰めと言う。

#### 4. 荒みとは何ですか？ [317]

317 第四則

霊的荒みについて。第三則と真反対の事を荒みと言う。例えば、霊的な暗さと乱れ、卑しく現世的なものへの動き、不信へと駆り立てる種々の乱れや誘惑からの不安、希望も愛もなく、霊魂がすっかりものうく、生ぬるく、物悲しくなってしまう、創造主から切り離されたように感じるのを荒みと言う。なぜなら、慰めが荒みの逆であるよ

## 霊の識別の規定

---

うに、慰めからの思いも荒みから出る思いの逆だからである。

### 5. 何をすべきか？

#### a. 荒みの時：

##### i. 変えないように [318]

318 第五則

荒みの時は、絶対に事を変更してはならない。かえって、その荒みに先立つ日の決定や決心、又は、その前の慰めの内の決心を堅固に揺るぎなく守るべきである。と言うのは、慰めの内に私達を指導し、勧めを与えるのはむしろ善霊であるが、荒みの内に指導するのは悪霊で、彼の助言に従ってはいは的に当たる道が取れないからである。

##### ii. 反対のことにするように [319]

319 第六則

荒みの時、初めの決心を決して変更してはならないが、その荒みにひたすら抵抗するのは、例えば、祈りと黙想に一層精進し、究明を入念にし、ふさわしい方法で苦業に力をいれるのは極めて有益である。

##### iii. なぜ荒みがあるのですか？ [320]

320 第七則

荒みの中にある人は、敵からの様々な乱れと誘いに抵抗するため、主が生来の能力だけを彼に残し、彼を試しておられると考えるがよい。なぜなら、例え明らかに感じられなくても、いつも彼に残る神からの支えによって、敵に抵抗することができるからである。実は、神は烈しい熱意、溢れるような愛と豊かな恵みを取り上げられたが、永遠の救いのための充足的恩恵は残っているからである。

##### iv. 忍耐を持つように [321]

321 第八則

荒みの中にある人は、身に降りかかる試練に屈服しない忍耐強さを保持するよう務め、やがては慰めを受けると考えるがよい。そして、第六則に述べてある通り、その荒みと戦う手段をとらなければならない。

##### v. 荒みの原因 [322]

322 第九則

私達が荒みの中にある主な理由は三つ上げられる。第一、霊的な務めに生ぬる

## 霊の識別の規定

---

くなり、それを怠り、なおざりにするからである。そうすると、私達の過失のゆえに霊的慰めが私達から遠ざかってしまう。第二、それほどの慰めや豊かな恵の報酬なしに、私達がどの程度能力のある者であり、どこ迄神への奉仕と賛美に励めるかを試すためである。①第三、本当の理解と知識を私達に与えるためである。すなわち、溢れる信心や熱心な愛、涙とか他のあらゆる霊的慰めを引き寄せたり、保ち続けたりするのは、私達による事ではなく、全部我が主なる神の賜物と恵みである事を私達に内的に感じさせるためであり、その他、いくら高慢か虚栄の思いを起こし、霊的慰めの信心や他の経験が自分からのものと思い、私達が他人の所有物に巣を造る事のないように助けるためである。

①又は、「私達がどこまで……励むかを私達に示すためである」。

②軒下に巣を造るつばめのように、他人の物を自分の物として取り扱い、それを住家にする。

### b. 慰めの時

#### i. 何をする？ [323]

323 第十則

慰めの中にある人は、後に来る荒みの時にどうするかを考え、その時のため新たな力を身につけるべきである。

#### ii. 謙虚になる：すべては恵みです [324]

324 第十一則

慰めの中にある人は、その恵みや慰めのない荒みの時に、いかに自分が無力になるかを考えて、可能な限り自分を卑しくし、低くするよう努めるべきである。反対に、荒みの中にある人は、充足的恩恵をもつ自分が全ての敵に十二分に抵抗できると考え、創造主を頼りにして、力を身につけるべきである。

### 6. 荒みの時の行動は？ [325]

325 第十二則

敵は抵抗されると仕方なく弱くなるが、自分からは強く見せたいという点で、女性のように振舞う。男性と争う時、男性に真向から反対されると、勇気を失い、逃げてしまうのは女性の常であるが、男性の方が勇気を失って逃げようとするならば、その女性の怒り、復讐の気持と残忍さは恐ろしく増大して測り知れなくなるのである。同じように、霊的な事に精進する人が敵の種々の誘惑に真向から抵抗して、誘われるところと正反対の行動を取るならば、敵は弱くなり、勇気を失い、誘惑も止めてしまうの

## 霊の識別の規定

---

が常である。反対に、精進する人の方が怖くなり、誘惑に耐える勇気を失い始めるならば、増大する悪意から自分のよこしまな意図を遂げようとする人間の敵ほど、猛々しい野獣はどこにもいないであろう。

### 7. 敵はどのように振る舞いますか？

#### a. ひそかに [326]

326 第十三則

敵は又、正体を隠し、暴かれない点で、邪心から女性に求愛する男のように振舞う。良い父の娘、良い夫の妻を悪へと誘いながら言い寄って来る悪者は、自分の話と誘いが内密にされるよう望む。しかし娘が父に、妻が夫に彼のよこしまな言葉や邪心を打ち明けた場合、彼はひどく不機嫌になる。なぜなら、取かかった企てが実現できないだろうと、容易に察しがつくからである。同じように、人間の敵も、自分のごまかしやそそのかしを善良な靈魂に向けてくる時、靈魂がそれを内密に受けとめ、内証にするよう欲し、望むのである。しかし、その人が良い聴罪司祭、又はそのごまかしや悪だくみをよく知り、霊的な事柄に通じている他の人にそれを打ち明けるならば、人間の敵はひどく不機嫌になる。なぜなら、自分のごまかしが暴露されて明らかになると取かかった悪行が首尾よくいかないだろうと、察するからである。

#### b. 弱いところから攻撃する [327]

327 第十四則

敵は又、勝利を収め、欲しいものを略奪するために、首領のように振舞う。軍の隊長と首領が陣を張り、城の兵力とその配置を見て、一番弱いところから攻撃するように、人間の敵も私達を巡って、対神徳、枢要徳、倫理徳を順次うかがい、永遠の救いのために最も弱く手薄と気づいたところから私達を攻撃し、征服しようとするのである。

\*\*\*\*\*

### 〔第二週の霊の識別の規定〕

328 同じ目的を目指す規定。この霊の識別の程度は前よりも高く、第二週によりふさわしい。

### 1. 神はどのように振る舞いますか？

#### a. 喜びを与える… [329]

329 第一則

## 霊の識別の規定

---

敵が引き起こす悲しみと不安をことごとく取り去って、真の喜びと霊的な歓喜を与える事が神と天使の霊動における特徴である。敵の特徴は、もっともらしい理由、屁理屈とたえまない欺瞞を使って、その喜びと霊的慰めを妨げる事である。

### 2. 神は理由もなく慰めを与えます [330]

330 第二則

慰めのもととなる原因なしに靈魂に慰めを与えるのは、主なる神だけである。なぜなら、靈魂に出入りし、動かし、靈魂を余すところなく主なる神の愛へ引き寄せるのは、創造主の特徴だからである。原因なしにとは、靈魂が知性と意志の働きによって、慰めを生む何かを前もって感じ、知る事がなかったと言う事である。

### 3. 前に原因がない場合...：注意するように！ [331]

331 第三則

慰めの原因があった場合、善天使、悪天使のいずれも靈魂に慰めを与えうが、それぞれの目標は相反している。善天使は、靈魂の利益のためであり、靈魂が成長し、ますます善の道において進歩するためであるが、悪天使はその逆を目指し、又後で、自分の悪意と邪念へ靈魂を引き寄せるためである。

### 4. 「悪い天使」は変装する [332]

332 第四則

光の天使に変装する悪天使の特徴は、初め信心深い靈魂に組みし、ついには自分の思いのままにするという事です。すなわち、正しい靈魂に似合った良い考え、聖なる考えばかりを持って来るが、後で、次第にそこから離れ、自分の隠された悪巧みと邪念へ靈魂を引き寄せようと努める。

### 5. 「良い天使」と「悪い天使」を区別する方法は？ [333]

333 第五則

考えの経路によく注意しなければならない。最初と中間と最後が全部良いもので、全く善だけを求めるものなら、それは善天使の印である。しかし、霊がもたらした考えの経路において、最後に霊が悪い事、横道にそらす事、あるいは、前に靈魂がしようとした事ほどには良くない事をもたらすなら、又靈魂を弱め、不安にさせ、乱し、以前持っていた平和と安らぎと静けさを奪ってしまうなら、これは、その考えが私達の霊的な益と永遠の救いの敵である悪霊から来る事を明らかに示している。

### 6. 悪い天使がどのように行動するかに注意すること [334]

334 第六則

蛇のしっぽから、すなわち、悪霊が誘い込んだ最後の悪い結果から見て、人間の敵が

## 霊の識別の規定

---

気づかれ知られた時、彼によって誘われた人には次の事が有益であろう。すなわち、直ちに敵がもたらした良い考えの経路を見て、まずその初めを確認し、次いでいかにして敵が甘味と霊的喜びの内にあった靈魂を次第にそこから引き下ろし、ついにその邪念へ引き寄せたかを検討すべきである。それは、この体験を良く理解し、注意する事によって、今後、敵の通常のごまかしから身を守るためである。

### 7. 「良いものから良いものへと進んだ」人たち… [335]

335 第七則

益々善の道に進んでいく人には、善天使は優しく、軽く、柔らかく、滴が海綿に入るようその靈魂に触れる。そして悪天使は、鋭く、騒がしく、不安を起こし、滴が石の上に落ちるように触れる。又、悪の道に益々進んでいく人には、上記の霊の触れ方は逆になる。理由は、靈魂の状態がその霊に反しているか似ているかによるからである。反している場合、霊がけたたましく、五感を叩いて、気づかれるように入るが、似ている場合は、開け放した我が家に帰る人のように、静かに靈魂に入るのである。

- a. 良い天使はどのように行動しますか？（「スポンジに水が入るように」） [335]
- b. 悪い天使はどのように行動しますか？（「石の上に水を落とすように」） [335]

### 8. 「理由のない」慰め：慰め続けることに注意を払う…人は間違いを犯す可能性があるので、行動する前に目的などを「調べる」 [336]

336 第八則

原因なしの慰めがある場合、既述のようにこの慰めは神から来るので、そこには偽りが無い。にもかかわらず、神がこの慰めを与える霊的な人は、今度の慰めの特有の時期をそれに続く時期から、すなわち、過ぎ去った慰めの支えやぬくもりで靈魂が暖まり豊かになる時期から、用心深く注意して、検討し見分けるべきである。と言うのも、多くの場合、この第二の時期に靈魂は、自分の概念と判断を関連づけ、そこから結論を引き出したりして、あるいは善霊か悪霊の影響のため、直接神から与えられたものではない様々な決心と意見を固めるからである。従って、それを完全に信用し実行する前に、極力検討する必要がある